

Japan

代表：小菅啓子

Email: keikosuge@hotmail.com

www.agapeworld.jp.org (日本語)

Tel: 045-262-9471 (自宅)

090-266-3390 (携帯)



AGAPE WORLD
Working for Reconciliation

England

代表：恵子・ホームス

Email: agape.kingdom@gmail.com

www.agapeworld.org (英語)

Tel: +44 (0) 20-8686-2478 (自宅)

+44 (0) 7968-057-059 (携帯)

No.1

2012年クリスマス

2012年の「心の癒しと和解の旅」は、ロンドンを10月14日に出発し、日本でのスケジュールを全て無事に終えることが出来ました。予算的に無理かと思われていた今年の旅でしたが、皆さまからの経済的支援により、6人の英国の方々をお連れすることが出来ました。

参加者は次のような方です(敬称は略させていただきます)。

ケン・ペット氏 92歳。台湾で捕虜生活をされました。

サム・ハリス氏 92歳。北海道で捕虜生活をされました。今回で5回目の訪問。

リンとマイク ケンさんの娘さんとそのご主人

ジョン 義父がタイメン鉄道完成後に熊野で捕虜生活されたイルカボーイズの一人。

ケイト 祖父が上海で憲兵隊から拷問を受けられた方。

また、東京の看護師。安子さんはロンドンから参加して下さり、献身的に尽してくれましたことを感謝します。

参加者はそれぞれ心に深い思いを持って参加されました。そして、過去の忌まわしい記憶からの解放を願って日本に来られました。

成田空港到着 (10月15日)

空港では、アガペワールド千葉チームの大歓迎がありました。

京都にて (10月16日~18日)

京都では、杉野さんをはじめ多くのアガペワールドチームが心からの歓迎をして下さり、参加者全員がホームステイを体験することが出来ました。皆、それぞれのホームステイ先で素晴らしい経験をされたようです。

熊野にて (10月18日~22日)

京都から三重県熊野市の紀和町へ。ここは、戦時中鉱山があり、そこで働かされていた英国兵捕虜300名のうち16名が亡くなりました。

地域の人達は、墓をつくって16名を弔い、定期的に追悼式を行ってきました。

清く流れる北山川(上流には有名な瀧峡があります)を見下ろして建つ入鹿ホテル瀧流荘はここで唯一の近代的なホテルです。瀧流荘には4泊し、自由時間を使って、瀧峡へのジェット船でのクルーズ、壮観な滝の見物、鉱山博物館の見学、近くの露天風呂への入浴など自然を満喫しながら旅の疲れをほぐすことが出来ました。

入鹿でのメモリアルサービス(10月20日)

20日(土曜日)には、一行にとって一番重要な式典、紀和町入鹿の鉾山で亡くなったイルカボーイズの追悼式に参加しました。司式は木本キリスト教会の中橋牧師が執り行い、地域の方々、特に老人会の方々が多数出席してくださり、厳かでそして和やかなメモリアルサービスとなりました。英国からの関係者も、写真を一緒に撮ったり、参加者と親しく会話するなど良い式でした。式のあと、地域の方々とともに、瀬流荘で昼食をとり、親睦の時をもつことが出来ました。

夜には、東京から駆けつけてくれたアガパワールドのメンバーも加わり、食事と食後のカラオケとダンスも楽しんでもらうことが出来ました。



マイク、ケンと安子さん



メモリアルサービスにて

尾道にて(10月22, 23日)

熊野からは紀伊半島を海沿いに走る特急黒潮で新大阪。そこから新幹線で岡山經由尾道へむかいました。尾道から瀬戸内海を挟んで向かいの島、向島にはかつて赤い煉瓦の紡績工場がありました。戦時中は捕虜収容所として使われていた建物です。ここへは毎年のようにアガパワールドの方をお連れして訪問させていただき、社長さんより案内、説明をしてもらっていました。煉瓦の壁には、空軍の捕虜だった人のネームプレートが取り付けられていて、訪れた元捕虜の方を喜ばせていたものでした。

しかしながら、会社は倒産し、スーパー用地となるこの紡績工場は取り壊されることとなり、壁の一部でも保存をと運動したのですが、結局すべて取り壊されてしまったとのことでした。向島の赤レンガの会では、壊された建物のレンガを集め、きれいにして売ることになりました。ネームプレートを別の所に建てるための費用の一部にするためです。

向島

しかし、ここ向島には、いつも心から私たちを待っていてくださるアガパワールド向島の方々がおられます。町の支援してくださる方をたくさん集めてくださり、素晴らしい歓迎会を開いてくれました。お寺の住職さん、大学の教授、元市長さん、そして長いお付き合いの方々、この私たちの活動を励ましてくださるのです。

広島(10月24日)

尾道から広島へ入った私たちは、広島では原爆資料館を見学し、平和公園で犠牲者のためのささやかな追悼式をしました。

東京にて(10月25日～29日)

新幹線を乗り継いで夕方遅く東京に戻りました。支援者のご厚意で素敵なホテルに格安で泊めていただきました。

上智大学の根本教授が計画された集いで私たち一人一人がその思いを語りました。集いに集まって下さった方々に心から感謝です。

英国大使館にも招かれ、英国大使ご夫妻、大使館員の方々とお茶をいただきながら楽しい語らいの時を持つことができました。

保土ヶ谷英連邦戦死者墓地での追悼式(10月27日)

横浜の保土ヶ谷にある英連邦戦死者墓地には若くして戦死した多くの兵士の墓があります。そして捕虜として亡くなった方の墓碑も無数にあります。ここで、清水ヶ丘教会の島田牧師の司式で追悼式を持つことができました。突然のお願いを快く引き受けていただいた島田牧師に感謝いたします。また、多くの集まって下さった方々にも感謝いたします。

本郷台教会での和解礼拝(10月28日)

翌、28日は本郷台キリスト教会で和解礼拝をしていただきました。礼拝では池田牧師は日本人を代表して、英国からの関係者ひとりひとりに過去の誤りについて謝罪しました。憲兵隊の拷問にあつて死線をさまよったあげくやっと生還した祖父を持つケイトは「ヨーロッパの戦争ははじめがついて終わったが、アジアの戦争ははじめがついていない。正義がなされていないことが悲しい」と発言しました。池田牧師が謝まり、ケイトもまた長い間日本人を毛嫌いし、日本を敵視してきたことを赦してくださいと発言し、詫びました。



ケン、ケイト、サム、恵子、池田牧師



本郷台教会にて 集合写真

上海で3カ月に渡る拷問を受けた民間人は全部で15人でした。その中で生き残ったのはケイトの祖父を入れてわずか3人でした。ケイトの父も、幼いころ自分の父がそのような目にあつたことで大きな精神的な打撃を受け、悲しい過去を背負って生きてきたのです。残念ながら私は最近亡くなったケイトの父に会うことはできませんでした。晴恵さんと二人で葬儀に出席し、ケイトのような元捕虜や民間人抑留者の家族、孫たちがまだまだ多くおられることを知りました。

別れの時(10月29日)

成田で皆を見送った時のことです。92歳のケンが言いました。「これからもっと日本語を学んで、2年後にアガペワールドでまた来るよ！」私たちが英語の勉強をして(ダンスも?)ケンを迎えましょう。すでに何回も訪問してくれたサムも92歳ですが、「また、来るかもしれないよ！」ですって。

その後の便り

その後、英国に帰った一行からe-mailが届きました。メールには、日本人の親切さ、寛大さなどに感動したこと。すっかり日本人を赦し、心が解放されたこと。日本の文化を知ることができた喜びや友達が出来た喜びなどが書かれていました。

「今回のアガペワールドの心の癒しと和解の旅での経験は一生忘れられない貴重な思い出です」とありました。そして日本の皆さまにくれぐれも感謝の思いをお伝えくださいとのことでした。

ジョンの孫は「僕も将来、アガペの旅に参加する!」と言っているそうです。



入鹿メモリアルサービスで敬礼するケン



千枚田でサムと支援会の豊代子



瀬流荘の親睦会を楽しむジョン

恵子より心をこめて 皆さまに

日本人である私たちは、暗い過去に目をつぶるのではなく、勇気を持って過去に向き合い、それに対してどのような態度をとるべきかを問いかけていくべきでしょう。

ケイトのような民間人抑留者および元捕虜の孫たちや、関係者の家族の方々と日本の兵隊の家族の方々が和解し、手を取り合って未来のために前進していけたら素晴らしいと思います。実際、私たち殆どの父親や祖父が戦争を経験しているのだと思います。

ちなみに英国では今でも元捕虜や民間人抑留者の方々と家族、友人が親睦会を続けています。そこには関係者の孫やひ孫が集まり、生還したおじいちゃん達を大切にしています。私たちも、どんなことをした、しなかったに関わらず、生き残った全ての兵隊さん達を皆でねぎらってあげたらどんなに素晴らしいことかと思います。私たちがどんな罪を犯していても、心から反省するとき、主なる神様は全て赦してくださり、信じる者には「義の衣」を着せてくださると聖書では言っています。

先月長野県の教会でお話させていただいた時、ある方が発言されました。その方のお父さんは軍人で中国に行っていました。彼は上官だったので余り最前線での戦いはなかったのだそうですが、父の戦友たちが頻りに集まって戦時中の話をしていたそうです。その中の一人が話したことは：中国人を一列に並べて、前のほうにおいしいものを置いて、それをやるから「ヨーイドンで走って行って取って来い」と言い、並んだ中国人の後ろにダイナマイトを仕掛けて走らせたそうです。そう話した人は、「おれはいい死に方は出来ん」と言っていたそうです。

イエス様は、誰でも「赦して欲しい」と願う者を赦し、天国への道を開いてくださいます。私達は誰でも大なり小なり罪を犯しています。罪人であることは皆同じです。主にあって赦され、解放されているかどうかの違いがあるだけです。イエス様が、父なる神からの人類へのプレゼント。それを祝うのがクリスマス。クリスマスを前にそんなことを思いました。



最後に英国の Agape World の新しいメンバーを紹介します。
1年半くらい前に共に活動するようになった、田口晴恵さんです。
よろしくお願ひします。

WWW.AGAPEWORLDJP.ORG にはたくさんの写真が出ていますので、是非ご覧ください

支援者の皆さまとイエス様に心から感謝します。

Merry Christmas!

そして祝福の多い新年をお迎えください。

From London With love

恵子 ホームズ